

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記―大正四年 下半期―」

村上 ござえ
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五―一九四四年）の日記『巽軒日記』の大正四年八月から十二月について引続き紹介したい。なお、凡例については第三一号で述べていることから割愛する。

この年の十一月十日、大正天皇の即位の礼が京都御所で行われた。日記にもその記述が見られ、所感を述べた記事が読売新聞朝刊に掲載されたことなどが確認できる。

巽軒日記

大正四年（西暦一九一五） 下半期

八月

一日、午前、晴天、鈴木弘より来状、○元田直、吉田雪子及び竹内康二来る、○弘道館より校正来る、○縫子、春枝と共に御殿場に赴く、○午后、竹本長吉、浦谷熊吉等来る、○校正を弘道館に送る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○運動に大塚方面に出づ、○驟雨、○夜、校正を弘道館に送る、

二日、午前、晴天、小山鞆繪より来状、○陰晴不定、○驟雨、○牛島なか子来る、乃ち之に写真壹枚を貸附す、○校正、○校正を弘道館に送る、○平林治徳より来状、○校正を日清印刷に送る、○午后、曇天、有風、校正、○校正を弘道館に送る、○宣光帰来る、○雨霽れて又降る、○弘道館より校正来る、○夜、校正を弘道館に送る、○書状を富田春山、富田順吉、森良三郎に送る、○日清印刷より校正来る、○雨、○此日、九ノ里虎之助より来状、

三日、午前、晴天、日進堂及び宝仙寺より来状、○森良三郎、角田松壽来る、○宣光、出発御殿場に赴く、○吉田熊次より使者を遣はし、書状を送来る、○校正、○午后、宣光の入学証と入学料金参円とを書留にて第七高等学校校造士館に送る、○校正を日清印刷に送る、○驟雨屢々至る、○書状を姉崎正治及び齋藤基次郎に送る、○縫子、春枝と共に御殿場より帰来る、○富山房より校正来る、○古澤清明来る、○校正、○書状を角田松壽に送る、○夜、校正、○原稿を大日本歌道奨励会に送る、○校正を日清印刷に送る、○此日、Kuratorium

der Schopenhauer-Gesellschaftより印刷物を送来る、○此頃、別荘に山出半次郎、菓子壺箱を携来る、○林茂生来訪す、
 四日、午前、雨天、在米国久保良英より来状、○弘道館より校正来る、○横浜駐在白国総領事シャルル、バスタンより書状及び印刷物二冊を送来る、○校正を日清印刷に送る、○再び校正を日清印刷に送る、○吉利純より来状、○午后、曇天、有風、校正を日清印刷に送る、○大野太衛来る、○再び校正を日清印刷に送る、○押田三郎夫妻及び柏原文太郎妻来る、○夜、柏原文太郎妻と共に晚餐をなす、○校正を日清印刷に送る、○再び校正を日清印刷に送る、
 五日、午前、曇天、有風、富山房より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を吉利純、堀江久勝、武藤儀亮、金澤長吉に送る、○若木貞一來る、○雨、○午后、半晴、齋藤基次郎より祝物壺台を送来る、○原稿入りの小包を日清印刷に送る、○菓子壺箱を携へて桂辨三を訪ふ、○唐川徹、井上益之進等より来状、○富山房及び弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○夜、神近市子来る、○富山房より校正来る、○西洞道野より来状、○校正を日清印刷に送る、○石川春陽より来状、○弘道館より校正来る、
 六日、午前、晴天、姉崎正治、加藤玄智、綿貫哲雄より来状、○校正を日清印刷に送る、○九、四〇東京駅発、御殿場に向かふ、○午后、二〇六御殿場着、○検定試験答案を読む、○夜、引続き、答案を読む、○雨、○此日、留守宅、島本愛之助、松原一義、齋藤基次郎妻等来る、

七日、午前、晴天、小宮山老人来る、○細野繁勝より来状、○答案を読む、○山崎亀太郎より餅を送来る、○村民、神楽を舞はして来る、○午后、答案を読む、○加藤玄智より菓子を送来る、○夜、独軍去る五日を以てワルソウを占領すとの報あり、○答案を読む、○「不安時代」(談話)東京日々に出づ、○留守宅、土岐龍太郎来る、
 八日、午前、晴天、答案を読む、○山崎亀太郎来る、○午后、答案を読む、○雷雨、○夜、答案を読む、○留守宅、大類伸、角田眞平来る、
 九日、午前、陰晴不定、山崎亀太郎より野菜を送来る、○答案を読む、○加藤玄智来る、○途上三宅花園女史に逢ふ、○一一、〇四御殿場出発、○車中答案を読了る、○午后、二、二五東京駅着、○文部省より「時局に関する教育資料(第一輯)を、珍書同好会より「日本風土記」(坤)及び「異本方丈記」を、米国より「The Japanese Problem in the United States」を送来る、○「日本経済叢書」(第十五卷)を送来る、○高島平三郎、赤井直好、中川景輝、村田儀郎、須藤求馬、岡野義三郎、穂積陳重より来状、○校正を日清印刷に送る、○和田仁章より来状、○夜、校正、○校正を日清印刷に送る、○雨、
 十日、午前、曇天、深作安文、小泉正治、及び在英国補永茂助より来状、○校正を日清印刷に送る、○再び校正を日清印刷に送る、○午后、校正を日清印刷に送る、○運動に大塚方面に出づ、○奥澤福太郎及び其他より来状、○夜、校正、○校

正を日清印刷に送る、○松田孫治郎より来状、○此日、内閣改造、

十一日、午前、曇天、富田順吉より来状、○富山房より校正来る、○井上波野及び井上末より縫子に來状、○校正を日清印刷に送る、○大西藤太より來状、○渡邊渡を訪ふ、○校正、○佐藤四一郎、鑿節を携来る、○午后、桂辨三を工科大学に訪ふ、○河合清太郎、竹本長吉来る、○柏原文太郎来りて結婚の打合せをなす、○竹内康二、写物を携来る、○「神道研究の主義」中外日報に出づ、○富山房より校正来る、○日本弘道会より來状、○夜、文部省より來状、○書状を柏原文太郎に送る、○十一時上野発、修養団員送来る、

十二日、午前、晴天、五三二郡山着、渡辺秀治來迎ふ、○七、一六川桁着、○川桁より樋口村に至る、樋口村より檜原湖畔に赴かんと欲し、馬に乗りて出發す、鍛冶屋の前を過ぐ、忽然鉄を打つの響あり、馬忽ち驚いて直立す、為に倒に墜落し、左手に負傷す、因りて檜原湖畔に赴かずして還る、午后、川桁に至り、五時半出發、川桁休憩中 Höffding Ethik を読む、○夜、七〇五郡山着、木村旅館に投ず、修養団員数名來訪す、○一、四〇郡山發、○此日、六角讓より來状、

十三日、午前、晴天、一〇、三四秋田市着、金澤長吉、兒玉実徳、堀江久勝等來迎す、直に石田旅館に投ず、藤原正来る、○午后二、〇〇自動車にて出發、○五、〇〇頃本莊着、武藤儀道等数人來迎す、直に小園旅館に投ず、○夜、武藤儀道、金沢長吉、深谷泰藏、木内喜七来る、

十四日、午前、晴天、講習会に赴き、「教育的倫理学」を講ず、

○島本愛之助より來状、○午后、武藤儀道に招かれて泉流寺に赴く、○夜、休養、○此日、修養団耶麻郡支部幹事長小原一、出發、酒田を経て帰る、小原一は樋口村より本莊迄特に好意を以て随行し來れる者なり、○負傷稍々輕快、

十五日、午前、晴天、講習会に赴く、○留守宅及び吉田靜致、岡本登より來状、○午后、本莊町民の為に「富と徳と寿」を演述す、○夜、小野寺徳太郎来る、

十六日、午前、半晴、講習会に赴く、長田藤四郎、白幡靜美と会见す、○午后、武藤儀道、佐々木佐七と共に来る、○武藤儀亮より來状、○講習会幹部の人々に公園地に招かる、風光絶佳なり、○修養団員三浦忠雄来る、

十七日、午前、晴天、武藤儀道より煮物を送来る、○武藤儀道妻、菓子を携来る、○講習会に赴く、○大峽秀榮より來状、○川上勝三郎と会见す、○午后、女子尋常高等小学に赴き、「社会に於ける女子の地位」を演述す、○金澤長吉、御礼の為に来る、○松戸久治、亦御礼の為に来る、○夜、深谷泰藏、女子を携来る、○小野寺徳太郎及び三浦忠雄来る、

十八日、午前、晴天、武藤儀道及び金沢長吉来る、○講習会に赴き、講義を結了し、告辞を述べ、講習員式百余名、○午后、二、〇〇自動車にて本莊出發、四、〇〇秋田市着、堀江久勝、兒玉実徳、藤原正、菊池俊諦來迎す、直に石橋旅館に投(ず)、○弥高神社に詣し、尋いで平田篤胤の墓に謁す、堀江久勝、神谷勇三随行し来る、○夜、秋田市在住の学士に俱樂部別館

に招待せらる、来会者は久米成夫、堀江久勝、兒玉実徳、濱武元次、菊池俊諦、○一一、五〇秋田市発、兒玉実徳、堀江久勝、菊池俊諦、久米成夫等送来る、○金沢長吉、秋田市迄随行し来る、

十九日、午前、晴天、車中新聞を読む、○休養、○午后、午前と同じ、○夜、七、四〇上野着、不在中龍山義亮、平塚雉鳩、櫻井知道、今井鎌太郎、陳惟一等来る、○福岡秀猪、別荘に来る、○吉田熊次、姉崎増子、押田三郎、竹林規矩夫、杉浦初太郎、松崎政五郎、山出半次郎、山口龍藏、并に文科大学及び文部省より来状、○森良三郎、浦谷熊吉、富田春山、等より祝儀の贈物を送来る、○岡本登、井上健兒より来状、

二十日、午前、曇天、校正を日清印刷に、書状を大峽秀栄に送る、○山口龍藏より来状、○姉崎老母、笹川老母と共に各々祝儀の贈物を携来る、○高橋正熊、一谷風牛、角田松壽等来る、○午后、雷雨一過、○角田松壽来る、○「個人主義に就いて」丁酉倫理に、「明治天皇祭所感」わか竹に出づ、○夜、校正、

廿一日、午前、曇天、井上健兒より贈物を送来る、○日清印刷より校正来る、○伊勢の田丸町より孔子廟繪葉書を送来る、○大峽秀栄、菓子壺箱を携来る、○押田翼妻、菓子壺箱を携来る、○角田松壽来る、○縫子、春枝と共に齋藤基次郎宅に至る、○春枝、井上成美宅及び雙葉女学校を訪ふて帰る、○午后、校正を日清印刷に送る、○柏原文太郎、岡野義三郎来る、○書状を山口龍藏に送る、○文科大学及び龜谷聖馨より

来状、○雨、○夜、岡野義三郎と晚餐を共にす、○校正を日清印刷に送る、○吉田雪子来る、○再び校正を日清印刷に送る、○角田松壽より来状、

廿二日、午前、曇天、宮坂喆宗及び田村安太郎より来状、○鈴木弘来る、乃ち之に浴衣壺反を贈る、○桂辨三夫妻、祝儀の贈物を携来る、○書状を誠之堂書店に送る、○鶴岡五郎来る、○校正、○午后、島本愛之助来る、○校正、○春枝の女の先生村松某、祝儀の贈物を携来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を浦谷熊吉及び角田松壽に送る、○誠之堂より「祝詞講義」を送来る、○夜、校正、○校正を日清印刷に送る、○金木九萬より来状、

廿三日、午前、曇天、井上俊雄より書状と贈物とを送来る、○千賀鶴太郎及び俵屋より祝儀の贈物を送来る、○浦谷熊吉来る、○林勃爾、祝物を携来る、○雨、○縫子、春枝と共に買物に外出す、○校正、○宮崎光子より来状、○返事を宮崎光子に送る、○午后、河合清太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○検定試験の点数を書留にて文部省の山崎達之輔に送る、○小川竹男来る、○校正を日清印刷に送る、○「教界春秋」を草す、○書状を金木九萬に送る、○夜、雨天、縫子、買物に外出す、○「教界春秋」を草す、○岸原鴻太郎より「精神の威力」を送来る、○「教界春秋」を日清印刷に送る、

廿四日、午前、晴天、日清印刷より校正来る、○丸善及び其他より来状、○浦谷熊吉及び人夫十人来る、乃ち婚嫁の荷物五荷を送る、目録如左、

箆筒 式筒

長持 壺筒

鏡台 壺筒

本箱 壺筒

机 壺筒

針箱 壺筒

下駄箱 壺筒

風呂敷包 式筒

祝物及其他種々

右

大正四年八月二十四日 井上哲次郎

田邊禎夫殿

○女中松枝を東海銀行に、宣光を大学に遣はす、○校正を日清印刷に送る、○大町美種より祝物として真綿を送来る、○阿部維巖より来状、○山口龍藏より来状、○金式拾四円及び金六円四拾銭の為換入の書状を山口龍藏に送る、○午后、曇天、三井銀行に赴く、電車中桑田熊藏に逢ふ、○宣光を成美宅に遣はす、○女中を遣はし、羽二重壺反を田代義徳に送る、○校正、○波野より縫子に来状、○藤井慶乗より来状、○井上成美より祝物を送来る、○三越より祝物として真綿を送来る、○夜、深作安文より来状、○校正、○此頃、村岡典嗣より来状、

二十五日、午前、曇天、小雨、服部宇之吉、岡本登より来状、○弘道館より校正来る、○十時弥より鯉節壺箱を送来る、○

進物、祝物等を柏原文太郎宅に送る、○校正を日清印刷に送る、○文明協会より「性慾研究」及び「實際之哲学」を送来る、○蓮沼門三より書状と写真とを送来る、○校正、○午后、岡上梁来る、○縫子及び春枝を拉して星ヶ岡茶寮に赴く、桂辨三妻亦来る、○夜、星ヶ岡茶寮に於て春枝と田邊唯司との結婚式を行ふ、出席者は双方の親戚二十五名、〔頁下部に「新郎新婦」の新聞記事切抜貼付〕○不在中蓮沼門三、鯉節券を携来る、○弘道館より校正来る、○教育實際社より書状と原稿とを送来る、○十時過帰宅、○蓮沼門三より祝電来る、○「日本婦人の将来」日本婦人に出づ、〔頁下部に「倫敦特電」独逸兵力の限度(廿四日発)の新聞記事切抜貼付〕

廿六日、午前、晴天、銘仙各々壺反を井上成美、吉田熊次、押田三郎、姉崎正治、齋藤基次郎に送る、是れ田邊唯司の贈物なり、○山口龍藏より来状、○校正、○鈴木善太郎来る、乃ち貞操に関する談話をなす、○田邊唯司夫妻来る、乃ち共に昼餐をなす、○午后、小雨、校正、○広文堂より鯉節券を送来る、○女中松枝を東海銀行に遣はす、○校正と東亜の光口絵解題とを日清印刷に送る、○原稿を教育實際社に送る、○夜、驟雨、校正を日清印刷に送る、○再び校正を日清印刷に送る、○此頃、一谷風牛来る、

廿七日、午前、雨天、校正を日清印刷に送る、○書状を田所美治、岡本登、鈴木善太郎に送る、○午后、書状を鹿田静七に送る、○富田純吉より電報来る、○縫子、柏原文太郎宅に赴く、○書状を工藤某に送る、○晚来天霽る、○夜、九時、田

邊夫妻東京駅を出発して伊勢山田に向ふ、縫子及び児輩悉く見送りに東京駅に赴く、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○星野筑州の筆記を訂正す、○月色清し、

廿八日、午前、晴天、富山房及び弘道館より校正来る、○芝田徹心、工藤誠一來る、○校正を二回日清印刷に送る、○山口龍藏より来状、○星野筑州の筆記を訂正す、○間千代、小児二人を携来る、○午后、内山忍川来る、○原稿を訂正して星野筑州に送る、○田邊禎夫夫妻、柏原文太郎妻と共に岡山県に向つて出発す、○縫子、益之進を拉して東京駅に赴く、○暑氣見舞の返事二十八通を発送す、○八束清貫来る、○「教育大辞書」の原稿を訂正す、○運動に大塚方面に出づ、○不在中小山鞆繪来る、○夜、鈴木善太郎の使者、原稿を携来る、乃ち原稿を訂正して之を使者に付与す、○「教育大辞書」の原稿を訂正して之を工藤誠一に送る、○此頃、有森新吉より来状、

廿九日、午前、晴天、齋藤勇及び中央報徳会より来状、○弘道館の使者、校正を携来る、乃ち校正を使者に付与す、○田代病院に下谷練堀町に赴く、○不在中大壁早治来る、○井上道喜、齋藤愛子と共に来る、○午後、早瀬稟司来る、○弘道館の使者、校正を携来る、校正を見て之を使者に付与す、○岡本登より来状、○小山鞆繪来る、○石橋智信より来状、○「加藤博士八十の賀に就いて」東洋哲学に出づ、○夜、吉田夫妻来る、○細野繁勝の筆記を訂正す、○富山房より校正来る、○校正を日清印刷に送る、

三十日、午前、晴天、林勃爾より来状、○小谷重、早瀬稟司来る、○貞操に関する談話、東朝に出づ、○田邊唯司夫妻より来状、○島本愛之助来る、○女中松枝を三井銀行に遣はす、○原稿を訂正して細野繁勝にやまと新聞社に送る、○海軍少将佐藤鍊太郎、東亜協会々員となる、○午后、大野太衛、内山忍川来る、○大病院に赴き、田代義徳に逢ひ、左手骨折の箇所をX光線に照ししに左の如し、〔手書きした絵(左図)貼付あり〕



更に、田代義徳の治療を受けて還る、○西原和治来る、○弘道館より校正来る、○校正、○Bertrand Russell, Scientific Method in Philosophy; Tagore, Gitanjali; Do, Chitra, Do, The Gardener; Do, Sādhana; The Realisation of Life; Do, The Crescent Moon. を購入す、○国書刊行会より「信仰叢書」及び「雑芸叢書」を送来る、○夜、岡本登来る、○校正を日清印刷に送る、

卅一日、午前、半晴、竹本長吉、高橋里美来る、○高橋里美、

東亜協会々員となる、○大阪鹿田静七より書籍入りの小包を送来る、○「東亜の光」(十の九)成る、○品料金式円を竹本長吉に贈る、○書状を蓮沼門三、小原一及び六角讓に送る、○細野繁勝より来状、○弘道館より校正来る、○宣光、横浜の押田宅に赴く、○「日本大蔵経」を送来る、○夜、皇典講究所より来状、○校正を日清印刷に送る、

九月

一日、午前、晴天、弘道館より校正来る、○森良三郎来る、○校正、○校正を日清印刷に送る、○書状を鹿田静七に送る、○書状を岡野義三郎に送る、○午后、負傷見舞の礼状拾五通を発送す、○岡本登より来状、○書状を坂本嘉治馬、中島利一郎及び石橋智信に送る、○銘仙壺反を小包にて岡野義三郎に送る、○校正、○書状を大類伸、石橋智信及び岩田僊太郎に送る、○校正を日清印刷に送る、○裏の崖の柵、三日間にして成る、○運動に大塚方面に出づ、○夜、大倉書店より印税を送来る、○侯爵井上馨逝去の報あり、○速記を訂正す、
二日、午前、晴天、速記を訂正す、○佐々木吉三郎、反物を携来る、○田尻直、角田松壽来る、○植木屋来る、一人樹上より墜づ、○書状を井上健兒に送る、○横井春野より来状、○午后、曇天、書状を富田春山、富田純吉及び蓮沼門三に送る、○増田惟茂、姉崎袖子、全増子来る、○速記を訂正す、○夜、引続き速記を訂正す、○「本朝高僧伝」を読む、
三日、午前、雨天、蓮沼門三より来状、○大類伸、有馬祐政、高木武、藤田季莊、岩橋遵成、堀謙徳、岩田僊太郎来る、○

藤田季莊と昼餐を共にす、○山田陽朔妻の計報来る、○午后、「本朝高僧伝」を読む、○中島利一郎来る、○吉田静致より来状、○高島平三郎及び鹿田静七より来状、○近藤圭造より「近藤瓶城翁伝」を「瓶城翁遺文」とを送来る、○書状を田所美治、阿部維巖、吉田静致、近藤圭造に送る、○夜、弘道館より校正来る、○文科大学及学習院より来状、○熊谷鉄治、大田洵平、東亜協会々員となる、○校正、

四日、午前、曇天、校正を日清印刷に送る、○修養団より来状、○学制に関する談話、読売新聞に出づ、○校正、○縫子、宣光と共に三越に赴く、○帝国学士院より使者来る、○竹本長吉来る、○雨、○校正を日清印刷に送る、○興学会より来状、○午后、雨天、校正を日清印刷に送る、○書状を兒玉實徳、藤原正、菊池俊諦、濱武元次、堀江久勝、久米成夫に送る、○弘道館より校正来る、○鹿田静七より小包を送来る、○菓子壺箱を山田陽朔に送る、○「過庭紀談」を読む、○東京日々の女記者山神某来る、○夜、雨歇む、○校正、○復た雨ふる、○校正を日清印刷に送る、○速記を訂正す、○文科大学より来状、
五日、午前、曇天、富田敦純、藤田季莊、竹内康二等より来状、○井上侯爵の計報来る、○土田誠一、十時彌来る、○雨、○書状を金澤長吉、深谷泰藏、武藤儀道、星菊太、日高驥三郎に送る、○学制に関する談話、読売新聞に出づ、○午后、雨天、遠藤夏子、島本愛之助来る、○吉田賢龍、岡上梁、大島直治に送る書状を認む、○姉崎正治、正見、種世を拉して来

る、○速記を訂正す、○夜、引続き速記を訂正す、○「玉蕉百絶」を読む、

六日、午前、晴天、縫子、山田陽朔妻の葬式に青山に赴く、○書状を山出半次郎に送る、○伊藤吉之助、深作安文来る、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○午后、校正、○現代教育記者西原和治来る、乃ち談話を筆記せしむ、○大壁早治、酒巻壽子来る、○四、○〇〇宣光、東京駅を出発して鹿児島に向ふ、○運動に原町方面に出づ、○不在中佐渡日報員来る、○夜、校正を日清印刷に送る、○田中喜一より来状、○再び校正を日清印刷に送る、○山田孝雄より「大礼通義」を送来る、○「大礼通義」を読む、○「日本国民の一大任務」やまと新聞に出づ、

七日、午前、晴天、岡野義三郎、蓮沼門三、六角讓より来状、○弘道館より校正来る、○時々驟雨至り、陰晴定まらず、○須藤新吉、告別の為に来る、○校正、○午后、在倫敦藤井慶乘より来状、○校正を日清印刷に送る、○弘道館より校正来る、○角田眞平より「木太刀」と書状とを送来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を釈慶淳に送る、○夜、西原和治より原稿を送来る、○原稿を訂正して之を西原和治に送る、○井上秀子より来状、○Ueberweg, Geschichte der Philosophie を読む、○此日、「日本国民の一大任務」やまと新聞に出づ、八日、午前、晴天、有風、兒玉實徳、富田春山より来状、○大野太衛来る、有故不遇、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○角田松壽来る、○佐々木佐七、東亜協会々

員となる、○大澤治作の論文を読む、○Ueberweg, Grundriss der Geschichte der Philosophie を読む、○午后、田邊唯司、福岡より電報を送来る、○Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophy を読む、○椎尾辨匡来る、○大島正徳より来状、○夜、杉山直喜の使者来る、○校正を日清印刷に送る、○校正、○此頃、春枝の贈物を雙葉高等女学校に送る、

九日、午前、晴天、高橋里美、三浦七右衛門より来状、○小包を田邊春枝に福岡市に送る、○校正を日清印刷に送る、○百科辞典の原稿来る、○常盤大定、伊藤吉之助来る、○金澤長吉、阿部維巖及び武藤儀道より来状、○原稿を百科辞典会に送る、○書状を有森新吉に送る、○午后、蓮沼門三、松本虎雄と共に来る、○「女子修身」壱百部及び「新編修身」壱百部の奥附を金港堂に付与す、○阿部維巖より菓子を送来る、○書状を石川春陽、藤井甚太郎、松崎政五郎に送る、○小雨、○蓮沼門三より菓物を送来る、○夜、吉田雪子来る、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を竹歳貞吉及び岩鼻長松に送る、○此日、竹内康二来る、乃ち之に燕台風雅一冊^ヲを付与す、

十日、午前、半晴、弘道館より校正来る、○内山忍川、堀野稔、征矢野晃雄、片山清太郎来る、○柏原文太郎より使者来る、○田中壽より来状、○書状を杉山直喜に送る、○校正、○午后、東京より使者来る、乃ち之に田邊唯司夫妻の写真を付与す、○南北社員丸山博章来る、○校正、○釈慶淳、深作安文、島本愛之助来る、○山内繁雄より「遺伝論」を送来る、○製

本屋来る、○夜、杉山直喜来る、○校正を日清印刷に送る、
○ Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophy を読む、
○ 上宮教会より来状、

十一日、午前、晴天、百科辞典の原稿来る、○原稿を百科辞典
完成会に送る、○田中壽より小包来る、○森良三郎来る、○
金沢長吉、荒井栄三郎、井上宣光及び田邊禎夫内より来状、
○揮毫、○書状を保坂胖治に送る、○午后、東武兵衛、及び
隣家妻来る、○揮毫、○文科大学より来状、○秋田県由利郡
教育会より銀製の花瓶壺筒を送来る、○礼状を金澤長吉に送
る、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○稲葉隆
生及び婦一協会より来状、○書状を山内繁雄及び稲葉隆生に
送る、

十二日、午前、晴天、弘道館より校正来る、○星菊太、弘道館
及び廓清会本部より来状、○松浦一、石橋臥波、塩谷温、中
島徳藏、遠藤隆吉来る、○遠藤隆吉と昼餐を共にす、○午后、
校正を日清印刷に送る、○角田松壽、伊藤吉之助、馬上孝太
郎来る、○運動に大塚方面に出づ、○校正、○校正を日清印
刷に送る、○長井沅より来状、○夜、婦一協会及び東亜協会
より来状、○校正、○校正を日清印刷に送る、○弘道館より
校正来る、○此日、宣光及び春枝より縫子に来状、○此頃、
「神道と世界宗教」の駁論、護教に出づ、

十三日、午前、晴天、校正、○在倫敦の補永茂助より The
Times の Educational Supplement を送来る、○柏原文太郎
妻及び古澤清明来る、○島本愛之助、保坂胖治及び杉浦初太

郎より来状、○弘道館の使者来る、乃ち之に校正と原稿とを
付与す、○午后、「日本経済叢書」第十六巻を送来る、○縫子、
高子を拉して津野慶太郎宅に赴く、○弘道館の使者再び来る、
乃ち之に校正を付与す、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速
記せしむ、○文科大学、中島利一郎、花田伸之助より来状、

十四日、午前、晴天、帝国教育会及び川北才一郎より来状、○
校正、○校正を日清印刷に送る、○書状を長谷川文明及び黒
木安雄に送る、○「感慨深し観音寺」学生に出づ、○速記を
訂正す、○佐々木佐七より来状、○午后、速記を訂正し了る、
足利学校より来状、○書状を佐々木佐七、花田伸之助及び足
利学校に送る、○白井成允、贈物を携来る、○弘道館員来る、
乃ち之に原稿を付与す、○文部省の使者、印刷物(国定教科
書意見報告彙纂)を携来る、○弘道館より校正来る、○田邊
禎夫より蒲鉾を送来る、○夜、東亜協会及び有森新吉より来
状、○校正を日清印刷に送る、

十五日、午前、晴天、野田義夫、石川春陽、岩鼻長松、及び婦
一協会等より来状、○学習院に赴く、○田邊禎夫、柏原文太
郎来る、○富山房より「漢文大系」第二十巻を送来る、○弘
道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○「女子修身」
壺百部の奥附を金港堂に付与す、○午后、教授会に山上御殿
に赴く、○珍書同好会より「還城楽物語」と「七夕の由来」
とを送来る、○夜、校正、○鈴木善太郎来る、○文科大学よ
り来状、○校正を日清印刷に送る、

十六日、午前、晴天、杉山直記より速記を送来る、○武藤儀亮

より来状、○浦谷熊吉来る、○「大日本仏教全書」及び「統合大講習会講演集」を送来る、○鈴木善太郎より筆記を送来る、○「儒教と仏教」統合大講習会講演集に出づ、○吉田静致、堀田相爾来る、○鈴木善太郎の使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○菓物壺籠を浦谷熊吉に送る、○午后、講義に大学に赴く、○藤田季莊に大学に逢ふ、○中島利一郎より来状、○製本屋来る、○速記を訂正す、○夜、国民新聞社より写真を送返来る、○文科大学より来状、○速記を訂正す、○縫子、児輩と共に外出す、

十七日、午前、小雨、弘道館より校正来る、○宣光、稻葉隆生、鈴木善太郎、修養団早稲田大学支部より来状、○土田誠一、大内基、九鬼周造、藤本真光、島本愛之助、渡邊政吉、来る、○百科辞典の原稿を送来る、○丸善より Ernst Mach, Erkenntnis und Irrtum を送来る、○「実業修身」三百部の奥附を六盟館に付与す、○乃木家再興に関する談話、東京朝日に出版、○午后、曇天、大野太衛来る、○校正、○書状を宣光に送る、○夜、林泰輔より「周公と其時代」を送来る、○岡上梁、久保猪之吉及び学習院女学部より来状、○校正を日清印刷に送る、○校正、

十八日、午前、曇天、弘道館より校正来る、○宮坂喆宗来る、○書状を岡上梁及び久保猪之吉に送る、○校正を日清印刷に送る、○書状を文科大学に送る、○午后、晴天、白井成允、齋藤精輔来る、○原稿を速達にて島本愛之助に送る、○ Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophy を読む、○

夜、心理学会に山上御殿に赴く、○弘道館より校正来る、十九日、午前、晴天、弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を島本愛之助に送る、○高木武、得能文及び山上御殿の小使来る、○東京慈恵会医院医学専門学校に赴き、御大典に就いて一場の講演をなす、○帰途車中遠藤夏子と会見す、○午后、福田豊より来状、○ Wilhelm Jerusalem, Introduction to Philosophy を読む、○経師屋来る、○夜、勉強、

二十日、午前、小雨、講義に大学に赴く、○島本愛之助より来状、○額賀綱五郎来る、○午后、校正、○征矢野晃雄、大竹國治、奥澤福太郎、角田松壽、藤田季莊来る、○帝国学士院より来状、○夜、日清印刷より原稿を送来る、○文科大学より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○再び校正を日清印刷に送る、○竹内康二来る、

廿一日、曇天、小雨、田邊唯司より縫子に来状、○今澤慈海及び螺山会より来状、○原稿を修正して速達にて之を日清印刷に送る、○書状を角田松壽及び現代教育社に送る、○「古学哲学」三百部の奥附を富山房に付与す、○午后、書状を美学研究会、螺山会、廓清会等に送る、○校正、○四宮兼之来る、○校正を日清印刷に送る、○文科大学の使者、追試験の答案を携来る、○富山房より来状、○夜、文科大学より来状、○校正、○校正を日清印刷に送る、

廿二日、午前、晴天、山田暘朔より来状、○学習院に赴く、○兒玉実徳及び角田松壽来る、○枝元長夫より来状、○在英国補永茂助より The Daily Mirror を送来る、○午后、教授会

に山上御殿に赴く、○夜、九鬼隆一の招待に赴く、奥田義人、清水澄、水野鍊太郎、高橋是清、富井政章等と会見す、○帰途車中古城貞吉に逢ふ、○弘道館より校正来る、○文部省及び文科大学より来状、○此日、早瀬稟司、「婦人雑誌」を携来る、

廿三日、午前、半晴、益之進遠足に鶴見に赴く、○弘道館より校正来る、○婦一協会及び後藤静香より来状、○西原和治来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を島本愛之助、角田松壽及び婦一協会に送る、○女中澄江を大学に遣はす、○所得税金三三、七三銭、府税市税金六、五九銭、合計金四〇、三二銭を郵便局に納む、○午后、講義に大学に赴く、○渡邊良の訃報来る、○弘道館より校正来る、○「中学漢文」二百部の奥附を光風館に付与す、○夜、美学研究会に山上御殿に赴く、○弘道館より校正来る、○丸善より Samuel Butler, Life and Habit を送る、

廿四日、秋季皇霊祭、午前、晴天、丸善及び葛岡敬雄より来状、○豊田臻、蓮沼門三、堀謙徳、白井成允、島本愛之助、角田松壽来る、○鈴木弘より来状、○早瀬稟司来る、乃ち談話を筆記せしむ、○杉山金次郎来る、○午后、柏原文太郎、押田三郎夫妻、花村銅造、枝夫長夫、麻生正藏来る、○書状を鈴木弘に送る、○竹本長吉来る、○「列聖全集」(第四回配本)を送る、○夜、鈴木弘来る、○校正を日清印刷に送る、

廿五日、午前、晴天、吉田賢龍、永山時英、早川純三郎より来状、○校正を日清印刷に送る、○阿部維巖より来状、○「教

界春秋」を草す、○書状を渡辺精に送る、○鶴の子餅と鯉節券とを押田翼、遠藤隆吉、蓮沼門三、大倉廣三郎、笹川貞子、浦谷熊吉、森良三郎等に、三色糸入の箱を川端、中洲、甘木、大町美種、千賀鶴太郎、及び井上俊雄に送る、○午后、曇天、大野太衛、島本愛之助より来状、○間端吾来る、乃ち之に「人格と修養」を付与す、○文明協会より「欧米之製造業」(下)及び「近世独逸社会思潮」(下)を送る、○「教界春秋」を日清印刷に送る、○Jerusalem, Introduction to Philosophy を読む、○運動に音羽方面に出づ、○「仏典結集」と「和漢名詩選」とを購入す、○夜、東亜協会より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○吉田雪子来る、○北海道教育会及び三上虎之助より来状、○引続き Jerusalem を読む、

廿六日、午前、晴天、藤井健治郎より来状、○弘道館より校正来る、○春枝より縫子に來状、○高木武来る、○校正及び「東亜の光」口絵解題を日清印刷に、書状を中島利一郎に送る、○有風、○午后、曇天、素行会を宗参寺に開く、有故不赴、○縫子、齋藤省三宅に赴く、○石橋臥波、「鏡の話」を携来る、○修養団員来る、○「朱子哲学」一百五十部の奥附を富山房に付与す、○勉強、○夜、勉強、

廿七日、午前、曇天、島本愛之助より来状、○講義に大学に赴く、○弘道館より校正来る、○遠藤隆吉の使者来る、○午后、田中義能、神田左京、清水正巳、紀平正美、石橋臥波、足立栗園、藤谷憲成来る、○柏原文太郎より栗と写真とを送る、○竹内康二来る、乃之に「崎門文献録」一冊を付与す、○校

正、○書状を島本愛之助に送る、○夜、校正、○此日、春枝の女先生二人に鶴の子餅と鯉節を送る、

廿八日、午前、晴天、校正、○文科大学より来状、○今澤慈海、井上俊雄、村松石子より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○文科大学に赴き、追試験を行ふ、○午后、小雨、校正、○縫子を三井銀行に遣はす、○中島利一郎より来状、○書状を中島利一郎に送る、○文科大学より試験の答案を送る、○大清、見積書と図案とを携来る、○校正を日清印刷に送る、○葉山萬次郎来る、○夜、岡本登、瀧精一より来状、○校正、○校正を日清印刷に送る、○弘道館より校正来る、○高橋作衛より来状、

廿九日、午前、小雨、学習院に赴き、衆と共に写真を見る、○女学部へ赴く、○電車中巨智部忠承と逢ふ、○美術史研究室に赴く、○午后、教授会上山御殿に出席す、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○夜、雨天、哲学会に山上御殿に赴く、○弘道館より校正来る、○広文堂より「人格と修養」三版四六〇部の印税金八二、八〇〇を送来る、○東京社及び婦人評論社より各原稿を送来る、○宣光、安藤太郎、島本愛之助より来状、○此日、横浜より写真を送来る、三十日、午前、曇天、金拾円の為換を宣光に送る、○大学より「大日本古文書」を送来る、○宮坂喆宗来る、○勉強、○弘道館より校正来る、○押田清子より来状、○午后、「中学修身」三百五十部の奥附を文学社に付与す、○講義に大学に赴く、○東京社の筆記を訂正す、○夜、黒木安雄、高橋鐵磨より来

状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、

十月

一日、午前、曇天、高橋亀市、山口龍藏より来状、○大町美種及び井上波野より縫子に来状、○加藤駒二、征矢野晃雄、島本愛之助、和田守菊次郎、三上義夫、森良三郎来る、○藤本眞光来る、乃ち之に原稿を付与す、○午后、筆記を訂正して之を東京社に送る、○伊藤吉之助来る、○富山房より訂正増補の「古学哲学」を送来る、○辻本卯藏、菓子壺箱を携来る、○夜、島本愛之助、西村悠太郎より来状、○井上久子、富田政喜より縫子に来状、○校正、○書状を藤井健治郎に送る、○校正を日清印刷に送る、○追試験の成績を文科大学に送る、二日、午前、曇天、吉田豊吉及び岡本登より来状、○「東亜の光」(十の十)成る、○「国民道德」上より、観たる御大典「東亜の光」に、「絵画の四要素」審美に出づ、○富田いわより縫子に来状、○原稿を訂正して之を婦人評論社に送る、○澄江を姉崎宅に遣はす、○校正、○雨、○「教育」上より見たる御大典「現代教育」に出づ、○午后、雨天、校正を日清印刷に、書状を折田彦市に送る、○日比谷図書館に赴き、「御大典の真精神」を演述す、○御殿場別荘より唐もろこし壺俵を送来る、○弘道館より来状、○夜、校正、○春枝より縫子に来状、三日、午前、晴天、書状を島本愛之助に送る、○足立四郎吉及び文科大学より来状、○経師屋来る、○姉崎正治来る、○阿部維巖、長井沔より来状、○勉強、○午后、小中村清矩二十年祭に国学院大学に赴く、島田三郎、加藤弘之等と会見す、

- 吉田熊次より「独逸の教育」を送来る、○弘道館より校正来る、○夜、大島直治より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○宮坂詰宗来る、○勉強、
- 四日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○午后、晴天、田中義能、和田守菊次郎、角田松壽、大澤桃谷、伊藤秀吉、早瀬稟司、竹本長吉、白井成允、来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○大野勇より来状、○「御大典と国民教育」教育の実際に出づ、○夜、教育實際社より来状、○校正、
- 五日、午前、晴天、齋藤弔花、及び今澤慈海より来状、○文部省より「時局に関する教育資料」第三輯を送来る、○校正を日清印刷に送る、○校正、○「中学修身」壱百部の奥附を文芸社に付与す、○東亜協会より小包を送来る、○再び校正を日清印刷に送る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○不在
- 中田尻直来る、○文部省より検定試験の答案を送来る、○夜、弘道より校正来る、○島本愛之助及び帝国学士院より来状、○校正、○校正を日清印刷に送る、
- 六日、午前、晴天、学習院に赴く、○薄井秀一来る、○答案を読む、○乃木家問題に関する談話、中央新聞に出づ、○婦一協会より来状、○縫子を三井銀行に遣はす、○午后、晴天、山根幹人来る、○答案を読む、○紀平正美、「認識論」を携来る、○夜、教育實際社より使者来る、○校正、○折田彦市、芳賀矢一より来状、○弘道館より校正来る、○高橋正熊来る、
- 七日、午前、雨天、小林一郎より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○校正、○勉強、○島本愛之助より来状、○午后、
- 小石川区役所より来状、○書状を速達にて学習院に送る、○夜、岩野泡鳴より来状、○校正、○校正を日清印刷に送る、
- 八日、午前、雨天、有風、花田伸之助、飯田義一より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○飯田義一より原稿を送来る、○書状を上田萬年、竹内康二、河内堂及び京都柘屋并に永山時英に送る、○島本愛之助及び角田松壽来る、○新井喜作より来状、○日本学会案内状を川面几兒及び石橋臥波に送る、○金拾六円式拾九銭の為換入の書状を鹿田静七に送る、○電話使用料金一六、五〇〇を郵便局に納む、
- 午后、日本案内状を上原勇作、藤田季莊等に送る、○縫子、贈物を携へて井上成美を三井慈善病院に訪ふ、○大竹國治及び富田文陽堂来る、○弘道館より校正来る、○書状を帝国学士院に、校正を日清印刷に送る、○弘道館より校正来る、○書状を吉田熊次及び田所美治に送る、○検定試験の点数会議に大学山上御殿に赴く、○夜、大島正徳、帝国学士院及び杉浦初太郎より来状、○文部省より教科書七冊を送来る、○速記を訂正して之を弘道館に送る、○書状を文科大学に送る、
- 九日、午前、晴天、書状を折田彦市に送る、○弘道館より校正来る、○文部省に赴き、修身科の口述試験を行ふ、○午后、引続き検定試験を行ふ、○不在中姉崎袖子来る、○森良三郎、見積書を携来る、○宮坂詰宗来る、○製本屋来る、○夜、書状と電報とを藤井健治郎に送る、○校正、○書状を宮坂詰宗に送る、○校正を日清印刷に送る、

十日、午前、晴天、委員会に帝国学士院に赴く、○柵屋より返事来る、○弘道館より校正来る、○午后、勉強、○縫子、高子を携へて横浜押田宅に赴く、○小谷雅之来る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○山本信哉及び白鳥庫吉の講演あり、来会者凡そ二十余人、○藤井健治郎及び折田彦市より来状、十一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○午后、校正、○大竹國治、藤田季莊、切田梅太郎、塩野義観来る、○縫子、姉崎宅及び吉田宅に赴く、○小林正策より来状、○夜、山田武八郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○文科大学及び丁酉倫理会より来状、○校正を日清印刷に送る、○書状を藤井健治郎及び折田彦市に送る、○校正、○雨、

十二日、午前、雨天、内ヶ崎作三郎より書状と「人生日訓」とを送る、○「国学院雑誌」を読む、○弘道館より校正来る、○田中義能、山本卯一より来状、○成瀬仁藏来る、○午后、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○深作安文、島山愛之助来る、○夜、帝国学士院に赴く、○弘道館より校正来る、○辻本卯藏及び大日本漢文学会より来状、○久保猪之吉より来状、

十三日、午前、晴天、学習院に赴く、○不在中竹内康二、写物を携来る、○弘道館より校正来る、○井上道喜来る、○三井銀行に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○校正、○夜、神道青年会に国学院大学に赴き、「神道の真精神」を演述す、○山田新一郎、副島知一等と会見す、○杉山直喜より速記を送来る、○須藤新吉より来状、○田邊春枝より縫子に

来状、○Armstrongより来状、

十三日、午前、半晴、島本愛之助、秦政治郎、櫻井錠二より来状、○瀧田哲太郎来る、○勉強、○書状を白井成允、及び小林正策に送る、○神田左京、東亜協会々員となる、○午后、講義に大学に赴く、○弘道館より校正来る、○紀平正美来る、○東京人類学会より来状、○午后、速記を訂正す、○校正、○宣光及び龍山義亮、文科大学々友会より来状、○書状を角田松壽に送る、○夜、伊藤吉之助来る、○「人格と修養」参部部の奥附を広文堂に付与す、○速記を訂正す、

十五日、午前、晴天、百科辞典の原稿来る、○松本虎雄、十時弥、鈴木弘、富田文陽堂来る、○瀧田哲太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○午后、為換入の書状を宣光及び婦一協会に送る、○帝国学士院の委員会に山上御殿に赴く、○不在中、田尻直、中川善一郎来る、○大学より旅費を受取る、○「大日本経済叢書」第十七巻を送来る、○「御大典の大精神」新総房及び静岡民友新聞に、「農本主義」山梨日々新聞、新総房、長野新聞、鷲城新聞に出づ、○金鑽俊雄、飯島實来る、○角田松壽、白井成允来る、○夜、書状を中島利一郎に送る、○買物に神田に赴く、○藤井健治郎及び木場了本より来状、

十六日、午前、晴天、日印協会、婦一協会等より来状、○書状を日印協会及び婦一協会に送る、○勉強、○電報を藤井健治郎に、書状を柵屋西村庄五郎に送る、○女中澄江を東海銀行に遣はす、島本愛之助来る、○午后、勉強、○「御大典の大精神」野州新聞及び群馬新聞に出づ、○小倉秀道来る、○床

屋に赴く、○夜、七時紀平正美と共に東京駅を出発す、伊藤吉之助、宮本和吉、鈴木弘送来る、○冷氣、

十七日、午前、雨天、七、一一京都駅着、藤井健治郎、朝永

三十郎等来迎す、○柵屋に投ず、○藤井健治郎、柴田寅三郎、

大江文城来る、○午后、哲学会に京都帝国大学内に赴き、「余

の見たる哲学と科学」を講演す、聴衆約三四百人、○風雨、

○夜、学生集会所に晚餐に招待せらる、来会者約四十人、○

此日、会見する者、松本文三郎、西田幾多郎、坂口昂、平田

元吉、深田康算、小豆澤英男、和田琳熊、中熊直喜、大槻快

尊、岡島誘、須藤新吉、野田義夫、龍山義亮、木場了本、

十八日、午前、晴天、藤井健治郎来る、乃ち共に桃山御陵に参

拜し、尋いで東山御陵に参拜す、○不在中折田彦市来る、○

午后、下御霊神社に赴き、出雲路通次郎に面会し、山崎闇齋

一派の遺物を観、垂加霊社を参拜して東山方面に遊び、石田

梅巖及び浅見綱齋の墓に謁して帰る、○大江文城より来状、

○書状を東京留守宅及び大江文城に送る、○夜、京大文科大

学教授等の為に京都ホテルに招待せらる、来会者は松本文三

郎、朝永三十郎、深田康算、上田敏、狩野直喜、高瀬武次郎、

坂口昂、千賀鶴太郎、新村出、小田切良太郎、平田元吉、大

槻快尊、由比質、米田庄太郎、原勝郎、藤井健治郎、

十九日、午前、曇天、竹苞楼、山田書店及び細川書店を訪ひ、

古書類を買求む、○不在中深田康算、大村桂巖来る、○午后、

大江文城来る、乃ち共に黒谷に到り、山崎闇齋及び三宅尚齋

の墓に謁し、尋いで丸山長楽寺に到り、山陽の墓に謁す、是

れより文城と分れて博覧会に赴き、大礼館、美術館及び動物園等を観る、○不在中西田幾多郎来る、○夜、米田庄太郎来る、○一徳会に修徳小学校に赴き、「御大典の真意義」に就いて一場の講演なす、聴衆約二百名、折田彦市、柴田寅三郎、小豆沢英男等と会見す、○「芙蓉百律」を読む、

廿日、午前、晴天、藺田宗恵、菓子壺箱を携来る、○柴田寅三

郎、御礼の為に来る、○高瀬武次郎、中島半狂来る、○博覧

会に赴き、主として第一会場を観る、○午后、第三会場、即

ち博物館に到る、尋いで稲荷神社に赴き、羽倉某氏を訪ひ、

東丸神社に参拜して帰る、○荷田春満の肖像を社務所に観る、

有歌曰く、ふみわけよやまとはあらぬからとりの跡を見る

のみ人の道かは、○一徳会主事山口直胤来る、○山口直胤の

案内にて、一徳会の招待に迎賓館に赴く、○夜、八、二〇京

都駅出発、松本文三郎、朝永三十郎、藤井健治郎、深田康算、

狩野直喜、高瀬武次郎、小田切良太郎、藺田宗恵、米田庄次

郎、西田幾多郎、山口直胤、大江文城、平田元吉等送来る、

○此頃、渡邊重石丸逝く、享年八十、

廿一日、午前、曇天、八、四〇東京駅着、車中所見歌壺首あり、

云く、群山の影ほのくらし曙にくれなる染むる富士の白雪、

○留守中棚橋一郎、鈴木弘、森良三郎来る、○松村介石、蓮

沼門三、井上円了、下村宏、稲葉隆生、岡上梁、佐々木忠次

郎、富岡永馬及び東亜協会、帰一協会、日本弘道会等より来

状、○柏原文太郎より写真を送来る、○富岡永馬より林檎壺

箱を送来る、○「御大典の大精神」九州日々新聞、北陸政報

に、「農本主義發揮の要」秋田魁新聞に出づ、○「陽明新哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、(以上)

○日下部三之介来る、有故不遇、○午后、校正、○夜、孔子誕辰会に山上御殿に赴く、来会者約二十人、○「御大典の眞精神」日本之小学教師に出づ、○日清印刷より「東亜の光」口絵を送来る、

廿二日、午前、曇天、川北才一郎及び桑原隣藏内より来状、○藤井健治郎より松草壺籠を送来る、○大竹國治、岩橋遵成、宮本和吉、田中義能、島本愛之助、角田松壽、征矢野晃雄、工藤誠一、鈴木弘来る、○藤井健治郎、山田清作、より来状、○「列聖全集」第四巻を送来る、○午后、書状を桑原隣藏及び大日本仏教会に送る、○「東亜の光」口絵解題及び原稿を日清印刷に送る、○堀田相爾、御礼の為に来る、○「漢文大系」二冊と「日本通史」一冊とを小包にして宣光に送る、○校正、○夜、雨天、校正を日清印刷に送る、○丸善より来状、○此日、紀平正美来る、

廿三日、午前、半晴、矢野太郎及び海軍大臣加藤友三郎より来状、○関義臣より「秋声窓文抄」三冊と「秋声窓詩抄別集」一冊とを送来る、○国書刊行会より「吾妻鏡」と「徳川文芸類聚」(第六)とを送来る、○校正を日清印刷に送る、○午后、中川眞瓶及び杉浦初太郎より来状、十時彌来る、乃ち共に監獄協会に到り、免囚保護事業講習会に従事せる人の為に、「日本道徳の過去、現在及び将来」を講演す、約三時間、○不在中宮坂結宗、清水藤一來る、○弘道館より校正来る、○夜、

校正を日清印刷に送る、○書状を宮坂結宗に送る、○文科大
学より来状、

廿四日、午前、曇天、東京社より来状、○書状を島本愛之助に送る、○修養団員某来る、○「教界春秋」を草す、○小谷重、森良三郎、平塚唯鳩来る、○間口三間・奥行六間・建物(工場)成る、宮坂結宗○午后、雨天、大日本文明協会に青年会館に赴き、「訳語訳文の統一」を演説す、聴衆約一千人、○不在中小山鞆繪及び柏原文太郎妻来る、○辻本卯藏より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○夜、満田新造より書状と「支那音韻断」を送来る、○正勝、高子等、田邊春枝を迎ふる為に東京駅に赴く、○勉強、

廿五日、午前、雨天、丸善より来状、○文科大に赴く、○「教界春秋」を草す、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○監獄局長谷田三郎より司法省の「第三十九刑事統計年報」及び「第十五監獄統計年報」を送来る、○午后、伊藤秀吉、角田松壽、足立栗園、富田文陽堂、田邊唯司、全春枝来る、○「教界春秋」を日清印刷に送る、○夜、田邊唯司婦去り、春枝のみ留る、○校正、○吉田雪子来る、○文科大
学及び河野富太郎より来状、○此日、宰府実母よし子の命日、廿六日、午前、雨天、富田敦純及び大蔵会等より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○廓清会本部より来状、○再び校正を日清印刷に送る、○「御大典と婦人」婦人画報に出づ、○午后、橋本元治、大竹國治来る、○天霽る、○校正を日清印刷に送る、○縫子、春枝と大久保に赴き、

病人を訪ふ、○書状を大正会に送る、○夜、宮内省及び外務大臣の招待状来る、○神保周藏来る、○校正、○春枝復た来る、○此日、全国道徳団体連合大会より来状、

廿七日、午前、晴天、大野太衛及び修養団より来状、○日清印刷より校正来る、○学習院に赴く、○八田泰輔来る、○竹内康二、写物を携来る、○校正、○午后、井上波野来る、○校正を日清印刷に、書状を学士会及び海軍省等に送る、○小山鞆繪、保高德藏来る、○松本文三郎及び大正会、日本弘道会等より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○夜、神道談話会に山上御殿に赴く、黒板勝美の講演あり、○宣光及び帝国学士院、桑原隲藏より来状、○此日、田邊唯司夫妻出発、福岡市に帰る、

廿八日、午前、曇天、由布惟義、山口龍藏、森信一二等より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を松本文三郎、藤井健治郎、大江文城、桑原隲藏、文科大學及び帝国学士院に送る、○神田きん子宅より松茸を送来る、○勉強、○石橋臥波、「大典と国民」を携来る、○午后、晴天、講義に大学に赴く、○弘道館より校正来る、○校正、○夜、学士会に赴く、会食後三上參次の講演あり、○大正会に青年会館に赴き、「御大典に対する国民の注意」を演述す、安倍磯雄、益富政助、近藤茂等と会見す、○帝国学士院、丸善及び明治火災保険会社より来状、

廿九日、午前、晴天、弘道館より校正来る、○文部省より「時局に関する教育資料」第四輯を送来る、○帰一協会、小西九

兵衛及び興学会より来状、○監獄協会輔成会書記島村民之助、御礼の為に来る、○大倉書店々員、原掬水、村澤喜代人、鈴木俊行、田尻直、菊池曉汀、島本愛之助、浦谷熊吉、八田泰輔、来る、○柏原文太郎より小包を送来る、○縫子を三井銀行に遣はず、○午后、岩橋遵成、帝国学士院書記来る、○金拾壹円七拾銭の為換入の書状を宣光に、金壹円の為換入の書状を山口龍藏に送る、○書状を帰一協会及び日本弘道会に送る、○角田松壽来る、○縫子、吉田宅に赴く、○校正を日清印刷に送る、○夜、校正を日清印刷に送る、○文科大學より来状、○書状を蓮沼門三に送る、

三十日、午前、曇天、「教育勅語」煥發後、満二十五年、○八田泰輔来る、乃ち談話を筆記せしむ、○賀表を修正して之を由布惟義に送る、○縫子をして金七円の為換入の書状を村末に送らしむ、○午后、日本美術院第二回展覽会に上野精養軒に赴く、○修養団に高等工業に赴き、「修養と主義」に就いて一場の講演をなす、聴衆百名、伊豆凡夫と会見す、○夜、松村任三在職二十五年の祝賀会に植物園に赴く、丘淺次郎、山田繁雄等と会見す、○日本弘道会に四ッ谷第二小学校に赴き、「御大典と教育勅語」を演述す、聴衆約百名、○不在中八田徳三郎来る、○此頃、「余の観たる哲学と科学」京都日ノ出新聞に出づ、○此日、「東亜の光」(十の十一)成る、
卅一日、午前、雨天、天長節、秋山定輔父の訃報来る、○「御大典と其影響」東亜の光に出で「御大典当日各家庭は如何に暮らすべきか」実業之日本に出づ、○得能文来る、○校正、

○天長節宴会に宮内省に赴く、○午后、筑前人会委員より来状、○縫子、雪子と共に音楽学校に赴く、○「御大典の意義に注意せよ」小学校に出で、「御大典と小学教育」小学研究に出づ、○「日本大藏経」を送来る、○八太徳太郎、大跡喜久太来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を筑前人会に送る、○夜、大江文城及び小西直重より来状、○有風、○勉強、

十一月

一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○弘道館より来る、○校正を日清印刷に送る、○増田俊一來る、乃ち之に家屋保険料金五一、七〇を支払ふ、此保険金額総計金一七八〇〇、〇〇なり、○森良三郎来る、○川北才一郎より来状、○「御大典の真精神」新脩養に出づ、○午后、山本卯一、征矢野晃雄、宮本和一来る、○原掬水来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「カイゼル即位の頃」中央公論に出づ、○八田泰輔より原稿を送来る、○白井成允来る、○八田泰輔の筆記を訂正す、○夜、書状を杉山直喜に送る、○文科大学より来状、○原稿を八田泰輔に送る、○校正、○「御大典の真精神」向上に出づ、

二日、午前、曇天、同文館工藤某来る、乃ち之に原稿を付与す、○校正を日清印刷に送る、○経師屋長谷川文明来る、○小雨、○午后、雨天、「御大典の真精神」修養世界に出づ、○竹本長吉来る、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○中央公論社主麻田駒之助より菓物壱籠を送来る、○高橋穰、「心理学概論」を携来る、○夜、校正、○小坂治一郎より来状、○日本弘道会より原稿を速達にて送来る、杉山直喜来る、

乃ち談話を速記せしむ、

三日、午前、晴天、学習院に赴く、○不在中文部省の使者来る、○校正を日清印刷に送る、○ストローヴを据付く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○弘道館より校正来る、○校正、○不在中竹内康二、写物を携来る、○夜、興学会に赴く、○内田銀藏、平塚雉鳩、福岡県教育会本部及び実業之日本社より来状、○富山房より「陽明哲学」を、原達平より原稿を、内田銀藏より論文二篇を送来る、○原稿を原達平に、書状を川北才一郎に送る、

四日、午前、晴天、山内佐太郎より来状、○東京教育品研究会より原稿料を送来る、○「御大典と国民道徳」新天地に出づ、○竹内康二来る、○校正を日清印刷に送る、○弘道館より校正来る、○書状を小山鞆繪及び杉山直喜に送る、○和辻哲郎、ゼエレン、キエルケゴオルを携来る、○所得税金三三、七三〇、府税市税金二一、八九〇合計金五五、六二〇を郵便局に納む、○書籍入の小包を宣光に送る、○内田銀藏より菓子壱箱を送来る、○帝国大学より「大日本古文書」一冊を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○長井沔より「周易筮法發揮」を送来る、○校正、○書状を伊藤吉之助に送る、○夜、文科大学より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○速記を訂正す、○実業之日本社より来状、

五日、午前、晴天、弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○大澤桃谷来る、乃ち談話を筆記せしむ、○黒澤逸郎、島本愛之助、来る、○仲田勝之助来る、乃ち談話を筆記せしむ、

む、○伊藤秀吉使者来る、乃ち之に写真を付与す、○弘道会の速記を訂正す、○山内佐太郎より「教育之精神」を送来る、○午后、細野繁勝来る、乃ち談話を筆記せしむ、○原稿を訂正して之を伯爵板垣退助に送る、○伊藤吉之助、葛生述吉等来る、○日本弘道会員、御礼を携来る、乃ち之に原稿を付与す、○富田文陽堂より来状、○仲田勝之助より原稿を送来る、○夜、原稿を仲田勝之助に、書状を小山鞆繪に送る、○井上末より縫子に来状、○吉田熊次夫妻来る、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○東亜協会案内状拾九通を発送す、

六日、午前、半晴、天皇陛下六時御出門東京駅より京都へ行幸あらせらる、○校正を日清印刷に送る、○書状を内田銀藏、多木悦造、富岡永馬に送る、○弘道館より校正来る、○角田松壽来る、○岩尾蟄龍、東亜協会々員となる、○再び校正を日清印刷に送る、○午后、黒澤逸郎より原稿を送来る、○勉強、○書状を丸善洋書店に送る、○Külpe, Einleitung in die Philosophie 及び Jerusalem, Introduction to Philosophie を読む、○夜、勉強、○弘道館より校正来る、○此頃、「御大典の大精神」産業世界に出づ、

七日、午前、曇天、小山鞆繪より来状、○文学士藤田明の計報来る、○花見喜代次、古橋今四郎来る、○午后、雨天、東亜協会講演大会を法科大学第三十二番室に開く、「世界に於ける日本の地位」を演述す、聴衆約八百人、外に大澤謙二、丘淺次郎、吉野作造の講演ありたり、○夜、懇親会を山上御殿

に開く、丘淺次郎、吉田熊次、神田左京、吉田豊吉、東敬治、黒木安雄、大島正徳、岩橋遵成、小林正策、土田誠一、小川恂藏、尾原亮太郎、亀谷聖馨、深作安文等二十七人来る、○浩浩居より来状、

八日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○細野繁勝より来状、○「盛典と国体美」やまと新聞に出づ、○吉田雪子来る、乃ち昼餐を共にす、○午后、川島次郎、中川謙二郎来る、○弘道館より校正来る、○丸善より Höfding, Modern Philosophers を送来る、○校正、○夜、文科大学より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に、不参届書を式部職に送る、○校正、

九日、午前、曇天、後霽る、小中村清象より来状、○「盛典と国体美」やまと新聞に出づ、○校正を日清印刷に送る、○「大日本仏教全書」を送来る、○珍書同好会より「誹諧書籍目録」(上) 及び「右武衛殿朝鮮渡海之雜稿」を送来る、○午后、秋山定輔より来状、○すみれ会を開く、来会者拾式名、○文陽堂より使者、書状を携来る、乃ち之に原稿を付与す、○浩浩居より来状、○校正、○夜、校正、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○文科大学及び弘道館より来状、○此日、深作安文妻、硯箱を、大島正徳妻、真綿を、高島平三郎妻、紅茶壺箱を、姉崎益子、細工物を携来る、○得能文妻、自製の菓子を携来る、

十日、午前、曇天、文明協会より速記を送来る、○島本愛之助より来状、○「即位礼を行はせらる、日の所感」読売新聞に

出づ、○校正を日清印刷に送る、○京都に於て即位礼を行はせらる、○校正、○特赦減刑御内帑金下賜、○午后、校正を日清印刷に送る、○勅語を賜ふ、○校正、○遥拝、○夜、兎輩を拉して二重橋外に至る、○即位礼に関する談話、中央新聞に出づ、

十一日、午前、曇天、葉山照子より縫子に來状、○境野哲、「活ける宗教」を携來る、○書状を浩々居に送る、○校正、○小野藍次郎來る、○「即位式と戴冠式」東京毎日に出づ、○午后、やまと新聞社員細野繁勝より來状、○竹本長吉來る、○校正、校正を日清印刷に送る、○弘道館より校正來る、○夜、校正を日清印刷に送る、○宮坂詰宗來る、○校正、○書状を黒瀬逸郎に送る、○此頃、押田三郎、海外留学の命あり、
十二日、午前、半晴、校正、橘惠勝、山口龍藏及び東亜協會等より來状、○島本愛之助、伊藤吉之助、村澤喜代人、淺野孝之、八太徳三郎來る、○尾生光三郎より速記を送來る、○「御大典の大神」佐渡日報に出づ、○岡澤鉦治より印刷物を送來る、○午后、校正、○書状を竹内康二に送る、○「日本經濟叢書」第拾八巻を送來る、○「御大典に對する注意」廓清に出づ、○弘道館より校正來る、○書状を中村正修に送る、○富田文陽堂より使者來る、○帝國教育会の使者、雜誌を携來る、○夜、文部省会計課及び松尾圓治より來状、○校正、○校正を日清印刷に送る、
十三日、午前、曇天、弘道館より校正來る、○富田文陽堂及び廣江商会より來状、○廣江澤次郎より「赤心一片」を送來る、

○ビール壺打を浩々居に送る、○豊国屋に赴き昼餐を喫す、○午后、文部省美術展覽會に赴く、○不在中竹内康二來る、○「即位礼と大嘗祭」神戸新聞に、「科学と哲学」樺太日々新聞に出づ、○宮内省より招待狀來る、○神田順子來る、○校正、○夜、姉崎宅より使者來る、○校正を日清印刷に送る、○「古典講義録」を読む、

十四日、午前、晴天、大嘗祭日、J. J. Swiftより來状、○竹内康二來る、○「古典講義録」を読む、○八太徳三郎、押田三郎來る、○弘道館より校正來る、○押田三郎と昼餐を共にす、○午后、「建国以來の盛儀」福岡日々に出づ、○「教育勅語教本」の序を草して之を豊後川北才一郎に送る、○吉田宅に赴き、尋いで浩々居に入り、一場の講演をなして還る、○縫子、高子を拉して文展に赴く、○不在中中村正一、「敬字詩集」を携來る、○夜、恩田和、八太徳三郎來る、○八太徳三郎をして談話を筆記せしむ、○此日、半田一郎來る、○森村市左衛門より來状、

十五日、午前、晴天、John Trumbull Swift來る、○竹内康二、写物を携來る、乃ち之に「敬字詩集」を付与す、○女中澄江を文部省に遣はす、○松尾圓治及び老杉洞画房より來状、○午后、三上義夫、「三元素略説」を携來る、○校正、○林勃爾、角田松壽來る、○運動に音羽方面に出づ、○夜、松村任三、藤原喜代藏等より來状、○島本愛之助より「經濟より見たる道徳」を送來る、○校正を日清印刷に送る、
十六日、午前、晴天、小野藍次郎より來状、○老杉洞画房より

小包を送来る、○伊藤吉之助来る、○「中学漢文」二百部の奥附と光風館に付与す、○書状を森村市左衛門に送る、○弘道館より校正来る、○大学に赴く、○八角堂に於て饗饌を賜はる、○宗像逸郎より来状、○山崎亀太郎外御殿場の農民三名来る、之に晚餐を供す、○校正を日清印刷に送る、○夜、池田久米次郎より来状、○伊藤吉之助来る、乃ち之に「天則百話」を貸付す、○弘道館より使者来る、○校正、○此日、結婚に関する談話、読売新聞に出づ、

十七日、午前、晴天、川島平五郎より来状、○学習院に赴く、○女中澄江を森村銀行に遣はす、○午后、深作安文、島本愛之助及び長谷川文明来る、○校正、○運動に神田方面に出で「護園十筆」と「樵山存藁」と「経解要目」とを購入して帰る、○電車中飯島忠夫と会见す、○夜、校正を日清印刷に送る、○校正、

十八日、午前、晴天、瀨本繁子より来状、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○「旧事紀」及び「古事記」を読む、○経師屋長谷川文明来る、○女中澄江を東海銀行に遣はす、○午后、講義に大学に赴く、○校正、○加藤岩造より来状、○陸相岡市之助より招待状来る、○夜、校正、○婦一協会より来状、○書状を宮坂詰宗に送る、○校正を日清印刷に送る、○此日、書状を川島平五郎に送る、

十九日、午前、晴天、川島平五郎より来状と絵葉書とを、八太徳三郎より書状と筆記とを送来る、○小野清秀より「大日本之国典」と「真言密教聖典」とを送来る、○校正を日清印刷

に送る、○姉崎袖子、笹川貞子及び押田三郎母を招待す、皆贈物を携来る、吉田雪子亦来る、○八太徳三郎の筆記を訂正す、○井上道喜来る、○姉崎、笹川、押田老及び井上道喜等と昼餐を共にす、○午后、筆記を訂正して之を八太徳三郎に送る、○「道教の特質及び其影響」明治聖徳記念学会紀要に出づ、○島本愛之助、角田松壽、宮坂詰宗来る、○運動に神楽坂方面に出づ、○夜、弘道館より校正来る、○書状を角田松壽、宮坂詰宗及び村澤喜代人に送る、○校正、○校正を日清印刷に送る、

二十日、午前、曇天、北里闌及び川島平五郎より来状、○書状を北里闌、宗像逸郎、藤田圭雄に送る、○辻本卯藏より来状、○書状を辻本卯藏、林泰輔に、「帝国教育」を帝国教育会に送る、○校正、○大野太衛及び村山友彦より来状、○書状を川島平五郎、村山友彦に送る、○校正を日清印刷に送る、○午后、浅野孝之、吉見乾海（海軍少将）来る、○弘道館より校正来る、○校正を日清印刷に送る、○再び校正を日清印刷に送る、○帝国学士院より来状、○「即位礼と大嘗祭」神戸新聞に出づ、○文陽堂の使者、印刷物を携来る、○押田の子より来状、○縫子、得能文宅及び吉田宅に赴く、○夜、書状を杉山直喜及び日清印刷に送る、○校正を日清印刷に送る、

二十一日、午前、晴天、川北才一郎、秦政治郎、芹沢貴一より来状、○村澤喜代人、飯島忠夫来る、○「貧しき人に真の幸福あり」婦人世界に出づ、○慈恵医学校に赴き、一場の講演

をなす、○豊国屋に赴き、昼餐をなす、○縫子、押田宅に横浜に赴く、○不在中宮坂詰宗来る、○「列聖全集」(第六回)及び「大日本覚醒史」を送来る、○林泰輔より来状、○午后、弘道館より校正来る、○田邊家の老婦人、大久保の別荘に病死すとの訃報あり、○校正、○縫子帰来り、高子亦帰来る、○夜、田邊禎夫、光岡安藝より来状、○校正を日清印刷に送る、○弘道館より校正来る、○田辺禎夫より通知書来る、

廿二日、午前、晴天、宣光より来状、○講義に大学に赴く、○弘道館及び太田資順より来状、○縫子、大久保の柏原別荘に赴く、○田中館愛橋より「航空機講話」を送来る、○午后、村澤喜代人、大壁早治、角田松壽来る、○校正を日清印刷に送る、○書状を川島平五郎に送る、○E. A. Gordonより来状、○姉崎袖子来る、○運動に大塚方面に出づ、○夜、杉山直喜来る、○書状を田中館愛橋に送る、

廿三日、午前、晴天、九、三〇上野出發、足利に向ふ、島田三郎及び其他と会见し且つ同行す、○午后、○四五足利着、直に足利学校に赴く、川島平五郎、青木浦次郎(郡長)、原田定助、小村光雄(カ)(小学校長)、川島平三郎(警察署長)島田亀太郎、興津壽男、長安太郎等と会见す、○「孔子の人格及び感化」に就いて一場の講演をなす、聴衆約六百名、○六、〇〇過足利出發、九、四〇上野着、○不在中鈴木弘、宮坂詰宗来る、○同文館より御礼を送来る、○弘道館より校正来る、○押田清子及び仁和寺門跡より来状、○「御大典と教育勅語」弘道に出づ、

廿四日、午前、晴天、文科大学、実業之日本社、勸業債券月報社及び宣光より来状、○学習院に赴き、尋いで私立海城中学校に到り、「御大典と我国家」に就いて一場の講話をなす、出席生徒約七百名、吉見乾海、淺野孝之、久保義雄等と会見す、○講話を了りて昼餐を学校内に喫す、○午后、教授会に大学に赴く、○新紀元社より来状、○伯爵板垣退助より菓物壺籠を送来る、○中川謙二郎より来状、○文部省の使者、書状を携来る、○夜、宮坂詰宗来る、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○丸善、大倉書店等より来状、○此日、マニユフハクチュラス生命保険会社より来状、○此頃、Carnegie Endowment for International Peace, Year Book for 1915を送来る、

廿五日、午前、晴天、大倉書店より「独和辞典」を送来る、乃ち之を宣光に送る、○渡邊泰より来状、○為換入の書状を宣光に、「東亜の光」口絵解題を日清印刷に送る、○弘道館より校正来る、○縫子、三越に赴く、○勉強、○竹内康二、写物を携来る、○午后、講義に大学に赴く、○「師範修身」参百部の奥附を晩成処に付与す、○「結婚の方法」新潟毎日新聞に出づ、○為換入の書状を井上宣光に、校正を日清印刷に送る、○押田三郎夫妻及び押田安子等来る、乃ち晚餐を共にす、○夜、杉山直喜より速記の一部分を送来る、○「教界春秋」を草す、○安子帰る、押田三郎夫妻と小児と在留す、

廿六日、午前、曇天、哲学会、島本愛之助、中島徳藏、山口通公より来状、○「御即位式の眞精神」勸業月報に出づ、○葛

岡敬雄、鈴木俊行、島本愛之助、工藤誠一、及び押田老母、全安子来る、○川島平五郎より来状、○「教界春秋」を速達にて日清印刷に送る、○原稿を工藤誠一に送る、○午后、校正、○喉頭加答児を憂ふ、○土田誠一、宮本和吉来る、○「実業修身」百式部の奥附を文学社に付与す、○松浦一、「文学の本質」を携来る、○婦一協会より小包を送来る、○校正を日清印刷に送る、○製本屋来る、○杉山直喜より速記の残部を送来る、○長島栄二郎、御礼の為に来る、○夜、押田三郎、水道町に赴く、○渡辺忠吾来る、乃ち談話を筆記せしむ、○書状を Harald Höfding に送る、○文部省より来状、○速記を訂正す、○権威社より来状、

廿七日、午前、晴天、速記を訂正す、○土田誠一来る、○岸本能武太より「静坐三年」を送来る、○渡邊忠吾、角田松壽来る、○書状を小野清秀に送る、○午后、南洋諸島標品展覧会を山上御殿に観る、○哲学会に莅む、○夜、第一学生集会所に会食す、○弘道館より校正来る、○小野清秀及び濱武元次より来状、○不在中宮坂喆宗来る、○「神道の真精神」国学院雑誌に出づ、○「日本国粹全書」第一輯を送来る、○前田幸作、石川三郎より来状、

廿八日、午前、晴天、野村岳陽、衣笠醇、征矢野晃雄来る、○「大典後の日本民族の覚悟」東朝に出づ、○速記を訂正す、○書状を丸善及び宣光に送る、○征矢野晃雄、東亜協会々員となる、○深作安文よりベレシヤギンの画を送来る、○午后、書状を島本愛之助及び三浦藤作に送る、○勉強、○運動に巢

鴨方面に出づ、○夜、研究、○吉田熊次夫妻来る、廿九日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○志田義秀、田村豊三郎及び婦人評論社より来状、○三省堂より「模範英和辞典」を送来る、○不在中小野清秀来る、○竹内康二、写物を携来る、○山本信哉より「武家事紀」(上)を寄来る、○速記を訂正す、○午后、三浦藤作来る、乃ち談話を筆記せしむ、○四宮兼之来る、○哲学及び哲学史卒業生の謝恩会に神田多賀羅亭に赴く、○文科大学及び小野清秀より来状、○「婦人の徳操と知識」婦人雑誌に出づ、○夜、文科大学及び島本愛之助より来状、○原稿を島本愛之助に送る、

三十日、午前、晴天、校正を日清印刷に送る、○丸善より Langenscheid, Taschenwörterbuch (Deutsch-Englisch) を送来る、○書状を竹内康二に送る、○島本愛之助より来状、○午后、Langenscheid を小包にして宣光に送る、○衣笠醇来る、乃ち談話を筆記せしむ、○青木晦藏、菓子壱箱を携来る、○「敬宇詩集」及び「中村正直伝」^{マヤ}を読む、○夜、「敬宇中村先生演説集」及び「中村正直伝」^{マヤ}を読む、○暹羅より「会友」を送来る、○此日、男爵辻新次死去す、

十二月

一日、午前、晴天、宣光より来状、○学習院女学部に赴き、尋いで女子高等師範に到り、中村敬宇先生の事蹟に就いて一場の講演をなす、聴衆教員学生約八百名、○吉田修夫より来状、○竹内康二、写物を携来る、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○「東亜の光」(十の十二)成る、○「天照大神」^{マヤ}を理

想化せよ」大阪朝日に出づ、○「哲学字彙」三百部の奥附を丸善に付与す、○不在中西洞道野来る、○夜、「国民道徳」上より見たる御大典」報徳に出づ、○「明治文明史」の序文を草す、○「抱腹談」を読む、○此日、帝国議会開会、○中之條田村豊三郎二女ゆう来る、

二日、午前、晴天、文陽堂の使者来る、乃ち之に「明治文明史」の序文を付与す、○高松芳孫の「抱腹談」を読む、○青山練兵場に於て大礼観兵式を行はせらる、○金港堂より印税を送来る、○水道料金一三、六六〇を区役所に納む、○校正、○補永茂助より Daily Graphic を送来る、○午后、校正、○弘道館の使者来る、乃ち之に校正を付与す、○東京堂より「平家物語」「源氏物語」及び「古今和歌集」を送来る、○運動に神田方面に赴き、中西屋に寄る、○夜、「源氏物語」「平家物語」及び「古今和歌集」を宣光に送る、○平林治徳より来状、○田邊春枝より縫子に來状、○校正を日清印刷に、書状を龜谷聖馨に送る、○文科大学より來状、○此日、皇男子御誕生、

三日、午前、晴天、加藤弘之より「人性の自然と吾邦の前途」を送来る、○校正、○西洞道野、島本愛之助来る、○ Wordsworth, Poetical Works を宣光に送る、○細雨、○竹本長吉来る、○午后、晴天、衣笠醇来る、○校正、○中川謙二郎、御礼の為に生徒実習製作品を携来る、○弘道館の小僧来る、乃ち之に校正を付与す、○文科大学の使者、宮中及び大隈首相の招待状等を携来る、○書状を宣光に送る、○日本

学会の案内状拾通を發送す、○弘道館の小僧、校正を携来る、○夜、朝倉尚綱より來状、○校正を日清印刷に送る、○三浦藤作より原稿と書状とを送来る、○校正、○此日、文科大学より吉田静致の論文を送来る、

四日、午前、晴天、校正、○筆記を訂正して之を三浦藤作に送る、○男爵辻新次の訃報来る、○竹内康二、写物を携来る、○弘道館の小僧来る、乃ち之に校正を付与す、○杉浦初太郎より來状、○校正を日清印刷に送る、○「敬宇詩集」を読む、○午后、角田松壽来る、○龜谷聖馨より來状、○書状を大島正徳に送る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、○内外教育評論社及び文科大学より來状、○ジー、アイ、ケールより印刷物數種を送来る、

五日、午前、晴天、八、一〇上野発、一〇、五五茨城県石岡町着、青年会に小学校に赴く、○午后、「大戦争と国民の覚悟」を演述す、聴衆約七百名、○平賀周（理事官）、安積昂太郎（茨城郡視学）、安藤定（郡書記）、糸賀正徳（実科女学校長）、和知忠順（郡長）、高瀬清二郎、石丸志都磨等と会見す、○夜、六、一五上野着、直に文科大学職員及び中学校長懇親会に上野精養軒に赴く、○不在中、鈴木弘来る、○甘木義兄富田春山死去の由、貞松より電報にて通知し来る、○弘道館より校正来る、○帝国学士院より來状、○此日、不在中島本愛之助来る、

六日、午前、晴天、上田恭輔より印刷物を送来る、○講義に大いに赴く、○男爵辻新次の葬式に青山斎場に赴く、木場貞長、

重田定一、湯原元一等と会談す、○辻本卯藏来る、○不在中
中村周吾来る、○午后、浩々居より写真を送来る、○衣笠醇
花見喜代次、清澤巖、森園豊吉、島本愛之助来る、○川田正
澂、高島平三郎より来状、○弘道館の使者来る、乃ち之に校
正を付与す、○夜、征矢野晃雄、富田貞松、辻太郎及び心理
学会等より来状、○校正、

七日、午前、晴天、葛生東介来る、○校正、○金七円の為換を
封入せる書状を富田貞松に送る、○女中を東海銀行に遣はす、
○「教界春秋」を草す、○文科大学より来状、○弘道館の小
僧来る、乃ち之に校正を付与す、○有風、○午后、弘道館の小
僧、契約書を携来る、○黒澤逸郎来る、○「教界春秋」を
草了りて速達にて之を日清印刷に送る、○秦政治郎来る、○
書状を鹿田静七に送る、○校正、○小石川区役所より来状、
○夜、校正、

八日、午前、晴天、浦谷熊吉より来状、○学習院に赴く、○弘
道館より校正を送来る、○富田文陽堂より書状と商品券とを
送来る、○富田貞松より計報来る、○校正を日清印刷に送る、
○午后、教授会に山上御殿に赴く、○角田松壽来る、○夜、
宮中の夜宴に赴き、能楽を陪観す、○上田敏、幣原坦、溝淵
進馬、瓜生海軍大将等と会見す、○不在中山口察常、原稿を
携来る、○此日、「列聖全集」及び「文字左側に」、2つ打っ
てある「日本経済叢書」(十九)を送来る、
九日、午前、晴天、校正、衣笠醇、原稿を携来る、○原稿を速
達にて島本愛之助に送る、○校正を日清印刷に送る、○衣笠

醇の筆記を訂正す、○弘道館の小僧、書状を携来る、○午后、
校正、○中島利一郎より来状、○原稿を島本愛之助に送る、
○運動に音羽方面に出づ、○夜、伊藤吉之助、宮坂詰宗来る、
○校正、○重田定一及び田中芳男より来状、○校正を日清印
刷に送る、○此日、天皇陛下、東京市奉祝会場に上野公園に
臨幸あらせらる、

十日、午前、晴天、帰一協会より来状、○重田定一、鈴木弘、
菊池暁汀、大竹國治来る、○野島辰次来る、乃ち之に紹介状
を付与す、○縫子、三越に赴く、○午后、島本愛之助、黒澤
逸郎来る、○有風、○衣笠醇来る、乃ち之に原稿を付与す、
○「社会と道徳」の序文を草す、○弘道館より校正来る、○
校正を日清印刷に送る、○夜、押田三郎の送別会に上野精養
軒に赴く、来会者は吉田熊次夫妻、姉崎正治夫妻、齋藤基次
郎夫妻、齋藤省三夫妻、柏原文太郎夫妻、押田三郎母、宮坂
詰宗等合計拾五名、○東亜協会、評論之評論社及びチャーレ
ス、ナイルス歓迎飛行会より来状、○不在中鈴木弘来る、
十一日、午前、曇天、帝国学士院及び新治郡連合青年会長和知
忠順より来状、○「社会と道徳」の序文を草す、○弘道館の小
僧、校正を携来る、乃ち之に校正を付与す、○村上俊江及
び押田三郎母来る、○衛藤衛より来状、○「世界に於ける日
本の地位」国民精神に出づ、○午后、角田松壽来る、○書状
を帝国学士院及び黒木安雄に送る、○弘道館の小僧来る、乃
ち之に「社会と道徳」の序文を付与す、○鹿田静七より小包
を送来る、○弘道館の小僧、校正を携来る、○夜、弘道館の

小僧、校正を携来る、乃ち之に校正を付与す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○弘道館の小僧、又校正を携来る、○校正を日清印刷に送る、

十二日、午前、晴天、富田貞松、帰一協会及び日本硫酸会社より来状、○書状を日本硫酸会社に送る、○弘道館の小僧来る、○瀬良倭喜太来る、○書状を外務大臣秘書官、石越紀念図書館及び川田正澂に送る、○午后、研究、○評論の評論社員来る、有故不遇、○縫子、三越に赴く、○夜、帝国学士院に赴く、○弘道館より校正来る、○中島利一郎及び古橋今四郎より来状、○「暴風雨の神様」娘子軍に出づ、

十三日、午前、晴天、市島謙吉及び桑原柳堂〔カ〕等より来状、○講義に大学に赴く、○弘道館員来る、乃ち之に校正を付与す、○書状を島本愛之助に送る、○午后、菊池暁汀、原稿を携来る、○珍書同好会より「朗詠要集」及び「誹諧書籍目録」を送来る、○弘道館員、校正を携来る、○柏原文太郎妻、長谷川福平、姉崎正治来る、○丸善より印税を送来る、○文明協会の速記を訂正す、○夜、島本愛之助来る、○弘道館員、校正を携来る、○「社会と道德」の校正全く了る、○日本経済叢書刊行会より卓上備忘録を送来る、○文明協会の速記を訂正す、○文科大学及び黒木安雄より来状、○杉山直喜より速記を送来る、

十四日、午前、晴天、文明協会の速記を訂正す、○弘道館の小僧来る、乃ち之に原稿を付与す、○押田翼妻及び渡邊貴知郎来る、○縫子を東海銀行に遣はす、○午后、速記を訂正す、

○小杉熙、吉田雪子及び田中次郎妻来る、○帝国教育会より来状、○夜、速記を訂正す、○帝国教育会より来状、○「社会と道德」一千部の奥附を弘道館に付与す、

十五日、午前、晴天、鳩山一郎より来状、○博文館よりポケット日記を送来る、○学習院に赴く、○九、三〇頃押田三郎出発、米国に向ふ、縫子、女中澄江を従へて横浜迄見送に赴く、○大竹国治来る、乃ち之に原稿を付与す、○書状を丸善及び中島利一郎に送る、○磯江潤よりビール壺打を送来る、○山口察常より来状、○午后、正勝、見送に横浜に赴く、○東京堂より「万葉集略解」を送来る、○「万葉集」を読む、○帰一協会に中央亭に赴く、ロベルトソン、スコット、コット、宮川邦基、高木壬太郎、山内繁雄、福岡秀猪等と会見す、○夜、九、〇〇頃帰宅、○此日、黒田侯爵邸より御品料金三千匹を送来る、○ケットを小包にして宣光に送る、

十六日、午前、晴天、帝国学士院より書状と印刷物とを送来る、○研究、○「梧陰存稿」を読む、○押田三郎母、安子及び押田翼妻来る、○「日本大藏経」を送来る、○久保川平三郎より来状、○午后、文科大学より来状、○講義に大学に赴く、○「梧陰存稿」及び「易」を読む、○夜、「万葉集」を読む、十七日、午前、晴天、大日本漢文学会より来状、○「東亜の光」口絵を送来る、乃ち解題を付して之を日清印刷に送る、○「大日本仏教全書」(十一月刊行)を送来る、○「社会と道德」の広告、新聞に出づ、○書状を久保川平三郎及び衛藤衛に送る、○午后、深作安文、島本愛之助来る、○丸善より書籍志

包を送来る、○「社会と道徳」成る、○弘道館より「社会と道徳」二を送来る、○博品館に赴く、○夜、山口察常来る、○帝国学士院より来状、○此日、反物を御殿場の番人に送る、十八日、午前、晴天、文部省及び文科大学より来状、○書状を小柳司氣太に送る、○金式円の為換を田中芳男記念資金募集事務所に送る、○書状を三上虎之助及び中川謙二郎に送る、○午后、大学に赴き、欧洲戦争の状況に関する大竹陸軍中佐の講和を聴く、○電車中美濃部達吉に逢ふ、○途上丘淺次郎と会谈す、○不在中角田松壽来る、○夜、市澤弥一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○此日、書状を山内佐太郎に送る、○同文館より文房具を送来る、

十九日、午前、晴天、渡邊幾知郎より来状、○書状を渡邊幾知郎に送る、○竹本長吉、松浦道熹、長尾永五郎来る、○書状を伊藤吉之助に送る、○勉強、○午后、小林義則より珈琲入角砂糖壺箱を送来る、○女中のぶを遣はして中島徳藏に書状と「社会と道徳」とを送る、○勉強、○夜、哲学会に赴く、得能文の講演あり、○古橋今郎イマノより来状、○此日、竹内康二、写物を携来る

二十日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「国民道徳概論」の奥附(壹百五拾部分)を三省堂に付与す、○田邊春枝より縫子に來状、○午后、大槻快尊より來状、○近藤哲雄、中島精一、山岸光宣、征矢野晃雄来る、○市澤弥一、筆記を携来る、○書状を杉山直喜に送る、○小柳司氣太より來状、詩あり、云く、又逢臘月太忽々、感慨何人与我同、外侮未除樽俎

際、内訶却起蕭牆中、讀書固不在温飽、肉食寧知歲寒衷、頼有先生椽大筆、七花八裂氣成虹、○市澤弥一の筆記を訂正す、○夜、伊藤吉之助来る、○山口察常、坂東貞二及び高島学齡堂より來状、○引続き、筆記を訂正す、○書状を深作安文、島本愛之助、伊藤吉之助、高島学齡堂に送る、○元良信太郎より故元良博士の写真を送来る、○此日、女中のぶを学習院に遣はす、

廿一日、午前、晴天、大清より砂糖壺箱を送来る、○東華孔教会より來状、○書状を元良信太郎及び宮坂詰宗に送る、○女中のぶを遣はして原稿を中島徳藏宅に送り、且つ三井銀行に赴かしむ、○「列聖全集」(第七回)を送来る、○午后、田中次郎より朝鮮鶴壺羽を送来る、○征矢野晃雄より來状、○上原才一郎より文房具壺箱を送来る、○運動に大塚方面に出づ、○夜、山口察常来る、○帝国学院イマノより來状、○「東亜の光」(十一の二)戦争と平和号成る、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○雨、○丸善より洋酒三罎を送来る、

廿二日、午前、晴天、日本弘道会、東京音楽学校、及び山口龍藏等より來状、○学習院女学部に赴く、○不在中喜多見さきの使者、書状を携来る、○「日本国粹全書」第六輯を送来る、○午后、反物各々一反を源七及び竹本長吉に送る、○反物各々一反を女中四人に与ふ、○諸雑誌を整理す、○教授会に山上御殿に赴く、○夜、山上御殿に会食す、○文部省及び宮崎道三郎等より來状、○此日、喜多見さきの使者に中村敬宇の書状を貸附す、

廿三日、午前、晴天、宣光より縫子に來狀、○鈴木弘來る、○学習院女学部より御札を送來る、○植木屋をして崖下を修繕せしむ、○国書刊行会より「日本書画苑」及び「徳川文芸類聚」を送來る、○女中のぶを大学に遣はす、○文明協会より砂糖壺箱を、富山房より書束箋壺箱を送來る、○杉浦初太郎より來狀、○古橋今四郎來る、○経師屋長谷川文明、掛物二幅及び額一箇とを携來る、○雜誌類を整理す、○午后、引続き雜誌類を整理す、○吉田雪子及び吉田静致妻、各々贈物を携來る、○鈴木貞太郎より鴨壺羽を、目黒書店より砂糖壺箱を送來る、○宮坂喆宗來る、○製本屋、製本を携來る、○運動に大塚方面に出づ、○夜、杉山直喜來る、乃ち談話を筆記せしむ、○山口察常來る、

廿四日、午前、晴天、六盟館よりハンケチ二打を送來る、○小杉熙、烏賊黒作を携來る、○岩橋遵成、鈴木弘、谷山恵林、征矢野晃雄、島本愛之助、藤岡大信來る、○金拾七円の為換入の書状を宣光に、金拾六円式拾八銭の為換入の書状を鹿田静七に送る、○角田松壽來る、○島本愛之助より葡萄酒六本を送來る、○今福忍より來狀、○午后、古橋今四郎來る、乃ち之に「禅月楼集」の解題を付与す、○東京府教育會員佐々木省三來る、○今福忍より菓子壺箱を、文成社よりビール壺箱を送來る、○金壺円の為換入の書状を玉利博士還曆祝賀紀念資、金募集事務所に送る、○女子高等師範より速記を送來る、○前川文栄閣より砂糖壺樽を送來る、○夜、芳賀矢一、吉田熊次、深作安文、島本愛之助、伊藤吉之助、宮坂喆宗を多賀

羅亭に招待す、○宮内省より招待狀來る、○文部省より來狀、○大学より「文部省職員録」を送來る、○此日、名古屋駅長飯田義一より野菜壺包を送來る、

廿五日、午前、晴天、杉山直喜より速記を送來る、○帝国教育会及び丸善より來狀、○速記を訂正す、○菊池曉汀、「青年訓」を携來る、○中野善門來る、有故不遇、○女中のぶを文部省に遣はす、○深作安文より海苔を送來る、○飯田義一より來狀、○「大日本仏教全書」を送來る、○弘道館より海苔を送來る、○午后、引続き速記を訂正す、○保険料金四百〇四円を振替にてマニユフハクチュラス生命保險会社に送る、○弘道館より「社会と道徳」式拾部を送來る、○「真」日本及び日本人に出づ、○夜、書学会より來狀、○速記を訂正す、○「将来の宗教」道に出づ、○伊澤修二より大鴨壺羽を送來る、○此日、植木屋來る、

廿六日、午前、晴天、速記を訂正す、○「社会と道徳」を吉田熊次に送る、○森良三郎、姉崎正治、四宮兼之來る、○鹿田静七より來狀、○法貴慶次郎より菓子壺箱を送來る、○午后、桂辨三及び間端吾來る、○一宮弘人より雉子壺羽を送來る、○吉田豊吉妻、菓子壺箱を携來る、○小野清秀及び島本愛之助より來狀、○速記を訂正す、○小松独龍、東亜協会々員となる、○多賀羅亭より菓子を送來る、○原稿を速達にて宮本和吉に送る、○夜、福岡県教育会長由布惟義より來狀、○中島慎一より菓子壺箱を送來る、○書状を帝国学士院及び林泰輔、由布惟義に送る、○富山房より印税を送來る、

廿七日、午前、晴天、縫子を東海銀行に遣はす、○萩野由之来

る、○国民新聞記者岡田復三郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、

○民友社より「南洋」を送来る、○午后、年始状数百通を発送す、○大豊隆麻より来状、○書状を大豊隆及び富山房に送

る、○金式拾五円五拾銭の為換入の書状を元良米子に送る、

○原亮一郎よりビール壺打券を、齋藤基次郎より菓物壺籠を

送来る、○角田松壽来る、○大日本青年教育団に和強学堂に

赴き、「国民性と教育」を講述す、○夜、帝國教育会に赴き、

「国民性と教育」を講述す、○此日、広文堂より印税と風呂敷とを、黒木安雄より文房具を送来る、

廿八日、午前、曇天、教育大辞書を送来る、○吉田硯造より来

状、○「中学漢文」八百部の奥附を光風館に付与す、○反物

各々壺反を中洲及び村末に送る、○土田誠一來る、○大日本

青年教育団員橋谷田平伍、御礼の為に來る、○加藤玄智、贈

物を携来る、○原稿を教育大辞書編輯所に送る、○午后、吉

田熊次来る、○文部省より「時局に関する教育資料」第五輯

を送来る、○浅倉屋より菓子壺箱を、笹川てい子より鶏卵箱

を送来る、○縫子、鴨二羽を携へて桂弁三宅へ赴き、尋いて

吉田宅に到る、○書状を丸善に送る、○喜多見さき子、使者

を遣はして書状、雑誌及び中村敬宇の書状を送来る、○博文

館及び林平次郎より各々ビール半打を送来る、○吉田修夫よ

りビール半打を送来る、○晚餐を富士見軒に取る、○夜、雨

天、教育大講演会に法政大学に赴き、「国民教育の根本精神」を講述す、聴衆約三百名、○日本弘道会よりハンケチ壺打を

送来る、○文科大学より来状、○此日、武藤儀亮より来状、

○菓子壺箱を一宮弘人宅に送る、

廿九日、午前、半晴、政教社及びマニユフハクチュラス生命

保険会社より来状、○硫酸会社より報告書を送来る、○「偉

人、特長研究の心得」成功に出づ、○「社会と道徳」を加藤弘

之と深作安文に送る、○海苔を井上道喜及び齋藤儀八に、菓

子を田邊禎夫に送る、○高子、腹痛を患ふ、○女中のぶを山

中銀行に遣はす、○晚成処より翁館とを送来る、○慈恵医院

の佐藤孝郷、御礼の為に來る、○午后、元良米子より縫子に

来状、○蠣瀬彦藏よりシャツを送来る、○三井銀行に赴き、

尋いで郵便局に到る、○不在中菊池樋城来る、○長谷川文明

掛物壺軸を携来る、○井上健兒より鯛を送来る、○夜、十時

彌より鴨二羽を、大倉書店よりビール壺打を送来る、○大洲

中学校より小包を送来る、○製本屋来る、○此日、ビール壺

打券を田中次郎に送る、○日進堂鶴岡五郎、ビール半打券を

携来る、○井上成美より縫子に贈物を送来る、○此頃、「故

中、村、敬、宇、先、生、逸、事」桜蔭会々報に出づ、

三十日、午前、晴天、百科辞典完成会及び其他より来状、○ビ

ール壺打券を柏原文太郎宅に送る、○六盟館より印税を送来る、

○野田義夫より盆を、常盤大定より蒲鉾を、東京社より菓子

入れを送来る、○市澤彌一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○

姉崎正治より漬物を送来る、○コート及び林泰輔より来状、

○午后、金港堂より印税を送来る、○製本屋来る、○石橋臥

波、菓子壺箱を携来る、○正勝を遣はして翁館を姉崎宅に送

る、○松浦家より平戸史蹟絵葉書を送来る、○同文館より鹿子木負信著「永遠之戦」を送来る、○運動に音羽方面に出づ、○夜、黒澤逸郎、御礼の為に来る、○野田義夫より来状、○山口察常より原稿と書状とを送来る、

廿一日、午前、晴天、加藤弘之、深作安文、宮坂詰宗より来状、○竹本長吉、島本愛之助、菊池樋城来る、○森良三郎来る、○帝国教育会より御礼を送来る、○溝淵繁より来状、○「世界に於ける日本の地位」国民精神に出づ、○午后、女中のぶを白井成允宅に遣はず、不在、○勇雄、風邪を患ふ、○高子、恢復、○田中義能、砂糖壺樽を携来る、○運動に神田方面に出で、「尺五先生全集」(写本)を求めて還る、○夜、古橋今四郎より来状、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を回想するに、購入書籍総計壺百五拾部(参百〇八冊)、寄贈書籍総計壺百参拾八部合計式百八拾八部、○教科書及び著書の検印合計九萬八千壺百部、

歳末到来物如左

文房具	同文館	漬物	姉崎
菓子壺箱	石橋臥波	鯛	井上健兒
飴	晩成処	飴	加藤玄智
角砂糖	文学社	蒲鋒	常盤大定
盆	野田義夫	菓子入れ	東京社
菓物壺籠	斎藤基次郎	鴨二羽	十時 弥
鴨壺羽	鈴木大拙	鶴	田中次郎
ビール半打	日進堂	菓子壺箱	浅倉屋

洋酒三罇	丸善	菓子壺箱	吉田豊吉
シヤツ	蠣瀬	ハンケチ壺打	弘道会
ビール半打	吉田修夫	ビール半打	林平次郎
ビール半打	博文館	鶏卵箱	笹川てい
文房具	黒木安雄	風呂敷	広文章
鴨二羽	萩野由之	菓子壺箱	中島慎一
ビール壺打券	原亮一郎	菓子	多賀羅亭
雉子壺羽	一宮弘人	菓子壺箱	法貴
大鴨壺羽	伊沢	海苔	弘道館
海苔	深作安文	葡萄酒半打	島本
砂糖壺樽	前川文栄閣	野菜	飯田義一
ビール壺箱	文成社	菓子一箱	今福 忍
砂糖壺樽	田中義能	砂糖壺箱	文明協会
書束箋	富山房	蜜柑	岩橋遵成
烏賊黒作	小杉熙	砂糖壺箱	目黒書店
ハンケチ二打	六盟館	全	大 清
乾魚及其他	吉田熊次	ビール壺打	大倉書店
文房具	光風館	ビール壺打	磯江 潤
漬物壺樽	吉田静致		

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)
(もりもと さちこ 東京大学文書館)